

社会学の観点からの分析:「食育基本法」と食生活の改善

国際商経学部 アスマン寺田・シュテファニー

キーワード 食生活、消費行動、食と健康**研究概要**

社会学の観点から2005年に実施した「食育基本法」について研究を進めています。日本では、食生活に関連している3つの問題に取り組んでいます。第1の問題は、現在の日本の食料自給率が40%であり、非常に低いです。第2の問題は「食の安全」です。第3の問題は、栄養のバランスを考慮されないことによる「生活習慣病」(肥満の問題・糖尿病・高血圧など)の増大です。

3つの問題に取り組みながら、食生活の変化と改善を分析しています。政府機関による食育政策(食事バランスガイドおよび学校給食)を解析しながら、大都市と地方における食生活の区別を研究しています。(写真:九州、竹田市の小学校の給食、2017年11月)

**アピールポイント**

本研究は、現地調査という質的な研究方法を利用しながら、食生活の変化と地方と大都市の区別を分析します。

応用分野

社会学